

ソレカラ私が幼少の時から中津ニ居て始終不平で堪らぬと云ふのハ無理でない。一体中津の藩凡と云ふものハ士族の間ニ門閥制度がチャント定まつて居て其門閥の堅い事ハ啻ニ藩の公用ニ就てのみならず、今日私の交際上、小供の交際ニ至るまで貴賤上下の区別を成して上士族の子弟が私の家のやうな下士族の者ニ向ては丸で言葉が違ふ私などが上士族ニ對してアナタが如何なすつて、斯うなすつてと云へば先方では貴様が爾う為やつて斯う為やれと云ふやうな風で萬事其通りで何でもない只小供の戯れの遊びも門閥が付て廻るから如何うまでも不平がなくてハ居られない其癖今の貴様とか何とか云ふ上士族の子才と学校ニ行て讀書會讀と云ふやうな事なれば何時でも此方勝つ學問ばかりでない腕力でも肩けはしない夫れが其交際。朋友互ニ交つて遊ぶ小供遊の間もちゃんと門閥と云ふものを持て横凡至極だから小供心ハ腹が立て堪らぬ況して大人同士。藩の御用を勤めて居る人々ニ貴賤の区別ハ中々喧ましきよとで私ハ覺えて居る。或るときニハ私に下執事の文字と書て遣たら大ニ叱られ下執事とハ何の事だ御取次衆と認めて来い。と叱られる。私の兄が家老の處ニ手紙を遣て少し學者凡で其表書ニ何々様下執事と書て遣たら大ニ叱られ下執事とハ何の事だ御取次衆と認めて来い。と云て手紙を突返して来た私ハ之を見ても側から獨り立腹して泣たり外ハ仕様がなかと始終心の中ニ思て居ましたソレカラ私も次才ニ成長して少年ながらも少しハ世の中の事分るやうニなる中ハ私の従兄才なども随分一人や二人ハ學者が在る能く書を讀む男が在る、固より下士族の仲間だから兄などノ話しのときはハ藩凡が善くないと何と云へる。不平を洩らして居るのを聞いて私は始終ソレを止